

7月 は 同和問題啓発 強調月間です。



差別のない明るい社会を築くために

県では、毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定めています。

部落問題（同和問題）は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、国民の一部の人々が、長い間、生活のさまざまな場面で差別を受けてきた問題で、今もなお続いており、今この瞬間も差別に苦しんでいる人がいます。

日本国憲法では「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」（第14条）と法の下に平等をうたっています。また、本市では令和2年12月に「直方市部落差別をはじめあらゆる差別の解消の推進に関する条例」が施行され、その中では、人権課題解決のための方策として人権教育および啓発の重要性が説かれています。

しかしながら、部落問題（同和問題）をはじめとするさまざまな人権問題の発生は依然として後を絶ちません。また、令和3年に実施された福岡県民意識調査の中で「現在の日本社会において、あなたは人権

が尊重されていると感じますか？」の問いに「人権が尊重されていると感じる」と答えた人は19・7%と少数であり、全体の63%の人が「いいにはいいえない」と回答し、多くの人が日本の社会は必ずしも人権が尊重されているとはいえないと感じているようです。

人権が尊重される社会づくりを目指し、部落問題（同和問題）をはじめとするさまざまな差別を解決するためには、一人ひとりの学び、気づき、行動が必要です。人にはそれぞれ違う価値観があり、さまざまな背景や事情を抱えて生きています。そこに生きる人々が「あなたも私も大切にかけがえない存在である」と認め合い、人権問題を自分の課題として捉え、真剣に取り組んでいくことが大切です。

本市では、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが幸せに、そして人間らしく生きられる社会を実現するための取り組みを行っています。みなさんとともに人権の学びを深めていきましょう。

同和問題講演会

同和問題に対する正しい認識と理解を深めるため、県と市がそれぞれ講演会を開きます。

◎県主催

とき 7月20日（土） 午後1時30分～3時
ところ クローバープラザ大ホール（春日市）
講演 「部落問題の今と、これからの社会づくり」

講師

BURAKU
HERITAGEメンバー/
学校DE&Iコンサルタント
武田 緑さん

◎直方市・直方市教育委員会主催

とき 7月24日（水） 午後2時～4時
ところ ユメニティのおがた 大ホール
演題 人権問題・部落差別問題を「今・ここ・自分事」として考える

講師

公益財団法人
福岡県人権啓発情報センター
館長 谷口 研二さん

人権問題に関するDVDなどの 視聴覚教材の貸し出し

市民・人権同和対策課では、無料で人権問題に関するDVDなどの視聴覚教材の貸し出しをしています。グループやご家庭での学習に活用し、人権感覚を高めましょう。

申込・問い合わせ 市民・人権同和対策課

（TEL 25・2105）

人権標語と作文

市内の小中学校の児童・生徒から、人権についての標語と作文を募集しました。今年は、標語76点、作文15点の応募の中から次のとおり入選作が決まりました。児童・生徒が自分自身の心にある「人権」についてありのまま表現したものです。これらの標語は、市内の小中学校と公共の施設、合わせて25か所に啓発標語看板として、7月から2か月間掲示します。

令和6年度 人権標語

幸せは あたり前ではないもので
平和によって うまれてくるもの
直方南小6年 亀谷 宏樹

くらべない 大切な
一人一人が 大切だ
福地小6年 井上 善心

七色の 個性を認め 笑い合う
下境小6年 岡村 天雅

大丈夫 あなたの味方は きつと居る
直方一中3年 澁谷 奏知

あなたのさ その一言で 救われる
中泉小6年 野原 由菜

生き方は

自分で決める 権利がある
直方北小6年 南りんか

前をむこう

希望はきみの 前にある
直方西小6年 吉原和久

動きだせ

みんなが笑える 未来へと
直方三中1年 安田結衣子

はなす時

みんなしずかに 聞いてくれた
直方東小6年 熊谷凛花

ありがとう

皆をつなぐ 愛言葉
直方二中2年 渡邊ゆら

ぼくたちは

幸福のために うまれたよ
感田小6年 城山大知

いやなこと

自分で自覚 今やめよう
上頓野小5年 篠澤大悟

ありがとう

あなたがいるから がんばれる
植木小6年 西原季良

差別ない

平和な世の中 未来へと
新入小6年 今村うみ

恥じないで

それはあなたの 大事な個性
植木中2年 大嶋葵

なやみごと

はなす勇氣と 聞く気持ち
直方一中1年 松原優乃彩

考えて

武器より怖い その言葉
上頓野小5年 高尾誠弥

思いやり

親しい仲でも 大切に
下境小6年 田島遙真

ありのまま

そのままの君 それでいい
直方三中2年 前田幸希

ありがとう

この一言で 花がさく
新入小6年 水上はる

生きている

そのこと自体に ちががある
直方北小6年 福田新

気づきたい

みえない涙 シグナルを
上頓野小5年 福本桃汰朗

優しさで

皆に広がる 笑顔の輪
直方三中3年 高島芽衣

くらべない

一人ひとりの 色がある
直方北小5年 吉弘健流

見えてない

相手の思いに 目を向けて
植木小6年 福原凛

権文 人作

「十二文字の言葉」

直方市立植木中学校 三年 藤本 真優

たった十二文字の言葉でした。

中学三年生十四歳、十四年。自分を認めることにそれだけの時間を費やしました。小さい頃から太っていた私はいじめられ自分に自信がありませんでした。自分は生きる価値がないと本気で思いこんでいました。「デブ」「ブス」私にぶつけられる言葉一つ一つは私の心にナイフを刺すように傷をつけて私が前に進むことを拒みました。

スマホを持つようになると世間と私との考えの違いに多く悩まされました。ネットで目に入る他人の容姿を罵る文章。他の人とは違って太った私はブスなんだ。こんな私は生きていちゃいけないんだ。風化していた傷跡に再びナイフがグサリと刺さる感覚がしました。また私は自信をなくしてもっと自分を嫌いになる。鏡を見るたびに、どうしても自分がとても価値のないものに見える。ごめんなさい。

見た目で人の価値を測る人が許せないのに鏡に映る自分はその人と同じものさしで私の価値を測っている。

私はそんな地獄に落ちて、抜け出せなくなりました。

そんな私を救ってくれた十二文字の言葉。

「あなたはそのまま美しい。」私の大好きな人がくれた言葉。「私は私の価値がある」見た目なんてその人の良さを伝える材料の一つにすぎない。一気に心のナイフが抜ける感覚がしました。私は一歩前に進みだしました。

中学三年生十四歳、十四年。まだナイフの傷が痛む時もあるけれど今は私は積極的に人前に立ったり発言することでありのままの自分を出せるようになりました。一歩前にふみだすことで昔の私では想像もできないような世界を見ることができています。私は自分の人生を自信をもって謳歌しています。自分が出せない人へ私は胸を張って言えます。大丈夫あなたは他の人と違う。その違いが美しい。